

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム小牧白寿苑

## 目標達成計画

作成日: 令和7年1月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49 29	感染防止対策から、入居者との外出する機会が少なく、そのことによるストレスから不穏な行動が見られる。	外出機会を計画し、気分転換を図る。	近隣の公園および喫茶店など、手軽に出かけられる場所に赴き、刺激を受けることで認知症進行予防に努める。	12か月
2	48	入居者の皆さんとおやつを作成するなど、レクリエーション開催の回数が低下している。	季節を感じていただけるおやつ作りや運動不足を解消できるレクリエーションの充実を図る。	引き続き、様々なレクリエーションを計画し、そこに参加していただくことで、過去のことをふりかえって思い起こしていただくきっかけを作る。	12か月
3	48	口腔ケア体操など毎日実施できているが、脳トレーニングや工作および音楽レクリエーションが行えていない。	入居者が自由に参加できるトレーニングの種類を増やし、入居者が退屈しない生活を維持する。	職員と一緒に楽器を演奏する機会を作ったり、JOYSOUND(音楽療養コンテンツ機器)を使用して脳トレプログラムを利用したり、月刊誌を参考に充実したレクリエーションを計画する。	12か月
4	29	ボランティアなど外部関係者との交流が乏しい。特に感染症流行期に	感染防止策を講じ、適的な外部関係者との交流を行えるようにしたい。	デイサービスでの対応を参考に、受け身でなく当苑から情報発信することで、外部者からの提案をしやすい環境を作る。	12か月
5	12	各職員の協力関係が好転せず、「職員ストレスチェック」の結果は、昨年と比較しても改善はみられていない。	協力関係を再構築し、職員にとって働きやすい環境を作る。	ユニットリーダーが中心となって、ストレスを抱える職員の傾聴を行い、職場全体で業務のフォローを行える環境を構築する。	6か月